

伊丹公論

刊号
第5号
通巻24号

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
伊丹市宮ノ前3-17-14
☎072・784・8170
編集
伊丹公論編集委員会

「清酒で乾杯！」広がる



条例施行の効果じわり

伊丹市の清酒乾杯条例が施行されてから1年近くになるが、徐々に条例の効果が発揮され、市内で「清酒で乾杯」の習慣が広がって来ている。

伊丹はかつて日本一の酒どころ

この条例の正式名称は「清酒発祥の地の清酒の普及の促進に関する条例」。伊丹市議会で昨年9月26日、議員提出案件として可決成立し、「日本酒の日」の10月1日に施行された。

前文に「伊丹は、清酒発祥の地として知られ、江戸時代には伊丹の地で醸され、幕末から明治維新を経て、政治体制が大きく変わりゆく中で、清酒業にも紆余曲折がありました。特に政治の転換期に商人として、どのように先読みをしながらその成り行きを判断してきたか大きなポイントであると考えます。その証の一つとして新撰組に金品を寄贈したことに対しての礼状が小西家に残されており、様々な社会勢力にそつなく布石を打ってきた「したたかさ」もあつたようです。前稿に触れさせていただいた情報収集なども怠らず継続的にしてきたことも重要なポイントの一つであると思われ

新撰組にも支援

幕末から明治維新を経て、政治体制が大きく変わりゆく中で、清酒業にも紆余曲折がありました。特に政治の転換期に商人として、どのように先読みをしながらその成り行きを判断してきたか大きなポイントであると考えます。その証の一つとして新撰組に金品を寄贈したことに対しての礼状が小西家に残されており、様々な社会勢力にそつなく布石を打ってきた「したたかさ」もあつたようです。前稿に触れさせていただいた情報収集なども怠らず継続的にしてきたことも重要なポイントの一つであると思われ

た清酒が「丹醸」の名で全国津々浦々に知れ渡り、將軍家の御膳酒として供された酒どころである」とうたい、市と事業者が市民の協力を得て清酒で乾杯の習慣を広めることにより、日本文化への理解の促進と、にぎわいと活力にあふれたまちづくりの推進を図るとしている。

有岡城下で酒造業が発展

伊丹の酒造業が一世を風靡したのは江戸時代。現在放映中のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にも再三登場した荒木村重の居城、有岡城の城下町から発展した「伊丹郷町」がその舞台だった。最盛期には造り酒屋が36軒、銘柄は200以上もあつたという。

しかし、江戸時代後期には、海に面した灘（現在の神戸市・西宮市の一角）が

海運の有利さと酒に適した宮水の発見を活かして江戸での販売シェアを拡大。これに伴って伊丹の酒造業は徐々に衰退し、「剣菱」「男山」「松竹梅」など、天下にその名を知られた銘柄は、灘など他の生産地に移転・買収されて行った。

現在、市内にある日本酒メーカーは2社だけだが、江戸時代の清酒番付で上位に位置した「白雪」（小西酒造）、「老松」（伊丹老松酒造）は健在だ。かつて伊丹が日本一の酒どころであった事実は市民の誇りであり、「清酒発祥の地」の伝説と、往時をしのばせる酒蔵などの建物は大きな観光資源と言える。

日本酒離れでも吟醸酒は好調

わが国の日本酒販売量は最盛期の半分以下に落ち込んでいる。しかし、それはアルコール市場で消費者の嗜好が多様化してきた結果に過ぎないとも言える。日本酒の中でも、価格の高い吟醸酒や純米吟醸酒などは大きく伸びている。当然ながら、おいしいものは売れる。日本酒がかつての栄光を取り戻すことも夢ではない。

伊丹シティホテルも協力

昨年10月6日、伊丹酒造組合と伊丹商

工会議所主催による記念式典が白雪ブルワリービレッジ長寿蔵で開かれ、藤原保幸市長やロンドン五輪柔道銀メダリストの杉本美香さんをはじめ、約50人の招待者が伊丹の銘酒「白雪」「老松」で乾杯し、清酒乾杯条例の制定を祝った。12月19日には、伊丹酒造組合、伊丹小売酒販組合、伊丹商工会議所などによる「日本酒で乾杯振興委員会」が発足。今後の活動として、「伊丹まちなかバル」「伊丹郷町屋台村」「酒樽夜市」「白雪蔵まつり」に向けて、様々な仕掛けが企画され、店頭シールや半のぼりが市内料飲店を中心に配布された。

日本酒文化振興で奈良市とコラボ

伊丹市議会や市役所では、条例施行後、議員、職員らの宴会は「清酒で乾杯」が常識になった。また、伊丹シティホテルでは、宴会の飲み放題メニューで、これまでオプションだった日本酒を基本メニューに入れたほか、宴会の申し込みをして来た人に、乾杯には日本酒を使うよう要請することにした。結果は上々で、同ホテルの興石利弥・営業課長は「ほとんどの団体が清酒で乾杯することに協力していただいている。ホテルで提供する日本酒の量は明らかに増えた」と話している。

その試みの第一弾として今年10月12日、旧岡田家住宅・酒蔵で「清酒発祥の地フォーラム」を開催する。両市の市長、酒造関係者らが自論を発表し合い、激論を戦わせる。

清酒乾杯条例1周年記念展

ことば蔵では、市立博物館と共催で清酒乾杯条例制定から1周年を記念した特別展を10月1日から26日まで開催。国立国会図書館関西館提供の資料を中心に日本酒の歴史を紹介する。

していく「不易流行」の考え方を実践してまいります。

4回にわたる寄稿を通じて伊丹の町の歴史的背景の中で酒造業や小西家が果たしてきた役割を少しでもご理解いただければこの上ない喜びでございます。「伊丹公論」の読者の皆様が、今まで以上に伊丹の町を愛していただくことを心から念じ、締めめの言葉にさせていただきます。

「白雪」が金賞受賞

今年5月9日に開かれた、平成25酒造年度全国新酒鑑評会で、本市の小西酒造富士山蔵で醸造された清酒「白雪」が金賞を受賞した。

最終回 小西酒造社長特別寄稿

伊丹の近代化に果たした酒造家たちの役割

今回は、伊丹の酒造業が伊丹の近代化に果たしてきた役割の話をさせていただきます。と思います。

伊丹は根津のへそ

まず伊丹という町を地勢的な見地から見ますと、「根津の国のへそ」としてその中心的役割を担ってきたのは周知の通りであります。西国街道のみならず諸街道が交差している要衝であり、また水路も猪名川を擁して発達し

てきました。NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」にも出てくる荒木村重の居城の有岡城が、その「惣構」としてのすばらしさだけでなく、立地的な重要性も十分に理解できます。また現代においても、全国の陸上自衛隊の方面隊の総監部が所在する都市で唯一伊丹市だけが県庁所在地以外にあると聞いており、このような地勢的背景を考慮にいて、近代化を俯瞰していただく一層伊丹の歴史に関して理解を深めて

江戸時代の後期頃に伊丹から灘五郷へ清酒の主産地が移っていった大きな理由として、海運の利便性や地勢を活かした水車精米の本格利用、宮水の発見、酒造好適米の開発と村米制度等々が挙げられますが、そのような逆境にも関わらず伊丹の酒造業が近代化に果たしてきたあまり知られていない役割があります。1890年代には酒造改良運動が起りましたが、旧来の酒造業技術を科学的な根拠に基づく新しい技術・機器に適応させるためには乗り越えられない厚い壁があつたのを、伊丹の酒造家とその克服に大きな力を発揮したことが記録に残されております。また地主的土地所有型酒造業から

逆境にめげず技術革新

戦後1947年に実施された農地改革により清酒業の生命線である原料米の入手方法の変化に柔軟に対応してきたことも大きな時代対応であつたと思われま。昭和30年代後半には、酒造業の悲願でもあつた年間醸造への道を切り開く全館低温コントロールをした四季醸造蔵の建設にもいち早く取り組んだのも伊丹の「白雪」でありました。

私財投じ社会貢献

明治維新前後からそれまでに清酒業の利益により蓄えた私財を積極的に投入し伊丹の近代化に役立ててきた、その典型的なものが鉄道事業であり、金融業であり、文化事業への貢献であると思ひます。またいつの時代にも究極の社会貢献であるだけでなく、事業家

が行きつく最重要課題が人材育成につながる教育事業であります。小西家を始め多くの酒造家が教育事業には大きな関心を示してきました。現伊丹小学校の原点である学校の創設にも深く関わったことも広く知られております。

いつの時代においても常に時代の先読みをしてきたことにより小西家の「白雪」は460年以上の歴史を積み重ねてくることができたと思われま。また次代の為にも日本という国の存在価値の一つが製造業というモノづくりにあることを自覚し、「グローカー」を実践しながら世界に羽ばたく小西酒造を目指していく所存であります。一方、社会貢献を意識し、「清酒発祥の地・伊丹」の地元を大事にし、歴史・伝統を重んじながらも時代に適応



大阪国際空港 開港75周年



完成を目指して工事中の大阪国際空港ターミナル（昭和43年12月4日）

関西を代表する空の玄関口「大阪国際空港」が開港75周年を迎えた。この空港を「伊丹空港」と呼ぶ人が多いが、実はこの呼び名は通称で、過去に正式名となつたことはない。戦後の米軍による接收

◇

◇

関西を代表する空の玄関口「大阪国際空港」に改称された。戦後復興・経済回復を望む財界の声から空港拡張が進められたことにより、住民の立ち退きや騒音問題が発生し反対運動が広がった。万博開幕などで発着回数が増加すると、さらに周辺住民の反対が強まり、騒音訴訟が相次いで起きた。これらを受け、伊丹市も昭和48年に「大阪国際空港撤去都市」を宣言し、一丸となって騒音との戦いを起こすことになる。

平成2年の存続協定を経て、その後の航空機の技術革新や民家防音工事などの環境対策の進展により騒音公害等が改善された。さらに、航空機の利便性や空港がもたらす地元への経済効果などの必要性を認める声が次第に高まってきた。平成19年の「大阪国際空港と共生する都市宣言」で、伊丹市は空港をまちの発展に重要な役割を果たす地域資源として、最大限いかしていくと宣言した。

そして、開港75周年を迎え「スマイルエアポート」をスローガンに「お客様が笑顔になれる空港づくり」を目指している。あなたが笑顔になりたい時、空港に行ってみるのでもいいかもしれない。

平成いたみ八景⑤ 夜の大阪国際空港（伊丹空港）

関西以外の人、特に関東の人達が伊丹と言えば、想起するのは第一に「空港のある街」である。つまり伊丹は空港の街との印象が強いのである。

その空港は昭和14年（1939）に開設されたのだから伊丹市が誕生するよりも僅かに早い。平成6年に開港され、国際線は移され、更に国内線でも千ヶを超える遠距離の路線も移されて便数は減ったが、利便性から利用者は現在も年間1300万人を超えている。

周辺の防音も兼ねて滑走路の西側に平成20年7月に伊丹スカイパークが建設された。長さ1・2キロ、幅80メートル、面積9公顷の公園で、北エントランスから大空の丘、冒険の丘、ツツジの丘などが続き、大空の丘では離陸する航空機を目前に見ることができ、その迫力は想像以上である。またツツジの丘では市民の花であるツツジが1万4000本も植えられており、咲き誇る春の景観は素晴らしい。

中央エントランスには岩屋遺跡が一部復元されており、弥生時代の灌漑施設を偲ぶことができる。更に南エントランスまで星空の丘や休息の丘などがあり、子どもから大人まで楽しむことができ市内外から多くの人々が来園されている。また千里川にかかる原田進入灯橋付近やエアフロントオアシス下河原や下河原緑地が整備されており、こども絶好のビューポイントとなっている。

八景に選定された時点ではまだスカイパークは完成していなかったため、航空機の灯りの軌跡などの美しい夜景はターミナルビルの展望台や猪名川の堤防からのものだったが、パークが完成し、より間近に見ることのできる夜景は従来以上の魅力である。

（いたみアピール推進協議会会長 山元龍治）

※次回は「朝日を浴びて（御願塚古墳）」を紹介予定

旧岡田家住宅・酒蔵が築340年

酒蔵の歴史を今に伝える



旧岡田家住宅・酒蔵

現在放送中のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」に登場した有岡城の城下町は酒造の町「伊丹郷町」として発展、酒蔵が軒を並べていたが、宮ノ前にある旧岡田家住宅・酒蔵もその中の一軒だ。建てられたのは、今から340年前の延宝2年

伊丹市宮ノ前2丁目5番28号
☎072・772・5959

旧岡田家住宅・酒蔵

（1674）。年代が判明し現存するものでは日本最古の酒蔵だ。江戸前期の伊丹の酒造家松屋与兵衛が建て、明治33年（1900）に岡田家の所有となった。平成4年に国指定重要文化財に指定され、解体修理を経て平成13年から一般公開されている。

入館無料。予約すれば市文化財ボランティアの会によるガイドを受けられる。伊丹の酒造りの歴史を象徴する貴重な文化遺産を訪ねてみてはいかがだろうか。

新ゆるキャラ

「そらやん」誕生



大阪国際空港の新ゆるキャラ「そらやん」（中央）

新関西国際空港株式会社は大阪国際空港開港75周年を記念し、新しいマスコットキャラクター「そらやん」を作成、5月24日の「空楽フェスタ2014」で披露した。

このマスコットキャラクターは「いつか空を飛べたいと夢を描く飛行機」という設定で、地元の大学生がデザインした。ネーミングは一般公募され、全国から寄せられた1904件の応募の中から、空港らしさと関西らしさが表現された「そらやん」が選ばれた。

セレモニーには伊丹市マスコットキャラクター「たままる」をはじめ、空港周辺のマスコットキャラクターたちがお祝いに駆けつけた。「そらやん」が登場すると、大勢の観客から拍手で迎えられ、先輩キャラクターとの共演を果たした。

これから、「そらやん」のゆるい魅力で伊丹の空から世界に羽ばたくことを期待したい。

ンター（東京都渋谷区）で表彰式が行われた。

ことば蔵は平成24年7月のオープン後、開館時間の延長や閲覧席数の拡大、親子ふれあいコーナーの新設、ビブリオバトル（書評合戦）の開催などに取り組んだ。これらによって、子どもが図書館に親しみを感じ、貸出冊数の増加などの成果を挙げたことが評価された。

ことば蔵2階にあるヤングアダルトコーナーもオープンに合わせて新設された。このコーナーには、中高生向けの図書や学習・進路関係資料が集められており、運営には現役高校生が参加している。市内の四つの高校の生徒たちが月2回行われる会議に参加し、図書の選定や掲示物の作成などに取り組んでいる。高校生ならではの目線で作られているからこそ、中高生が集まりやすい空間ができていく。

ことば蔵には、親子や中高生が読書する環境が整っており、読書のきっかけになるようなイベントも開催されている。この夏休みにぜひ利用してみたいかがだろうか。宿題のヒントになる本が見つかるかもしれない。

ことば蔵が「優秀実践図書館」に

読書の意欲を高める活動を文部科学大臣が表彰する「子どもの読書活動優秀実践図書館」にことば蔵が選ばれ、4月23日に国立オリンピック記念青少年総合セ

歴史と文化を 今に伝える伊丹市歌 制定から64年

伊丹市に市歌があることを「存じだろ
うか。現在では耳にする機会がほとんど
失われている伊丹市歌は今から64年前の
昭和25年(1950)10月10日、伊丹市
の市制10周年を記念して制定された。阪
神間では昭和15年(1940)制定の尼
崎市歌、昭和21年(1946)制定の西
宮市歌、昭和24年(1949)制定の芦
屋市歌に次いで4番目に古く、昭和40年
代までは市の行事でも盛んに演奏されて
いたそうである。

伊丹市歌の歌詞は「伊丹市公報」を通
じて一般公募を実施し、74編の応募作か
ら当時県立伊丹高校3年生だった和仁敏
之氏が応募した歌詞が選ばれて芦屋在住
の詩人・富田碎花(1890～1984)
が補作した。作曲は関西交響楽団の指揮
者を務め映画音楽や宝塚歌劇の劇伴曲な
どで幅広く活躍していた神戸出身の大沢
寿人(1906～1953)が手がけて
いる。ちなみに県立伊丹高校の校歌も和
仁氏が高校2年の時に作詞し、英文学者
・寿岳文章(1900～1992)の補
作を経て大沢が作曲したものである。

かつては市勢要覧にも市歌の歌詞と楽
譜が掲載されていたが、いつ頃からか掲
載されなくなってしまう。最近では平
成21年(2009)に刊行された「伊丹
市教育史・学校教育編」伊丹市立総合教
育センターで販売中。1冊4千円)の巻
ちいそしみ築く大伊丹

一、流れつぎせぬ猪名川の 輝き映
ゆる水の面 杜氏の醸す芳醇と その名
も高きわが郷土

二、月の光にさしいる 遠山なみ
に続く野の みのり豊けきなりわいに
しのぶ行基の徳の跡

三、俳聖生みしそのかみの 文化を
今に榮えつつ 理想の炬火をかがげも
ちいそしみ築く大伊丹

頭に市歌の紹介があり、作詞者の和仁氏
は歌詞に込めた思いを次のように説明し
ている。

「若者の人に優しく愛されるふるさとへ
の思いを込めて、伝統と文化を大切にす
る街づくりを祈っている」。

制定時から半世紀以上を経ても変わら
ず地域の歴史と文化を伝える市歌の素晴
らしさが再評価され、市民の間で再び歌
われる日が来ることを期待したい。

(橋岡昌幸)

現代人物風景



黒木テック工業(株) 社長

黒木候次さん



写真協力＝西田写真館

池尻にある黒木テック工業株
式会社は創業62年の会社であ
る。電気自動車の車体の製造か
ら始め、今日では全国各地の遊
園地で楽しめる乗り物作りが

一生、夢を追いかけて

主な仕事だ。
相次ぐ遊園地の閉園により新
規事業を模索していた時、「とっ
くりん」の製造を手がけた。」と
「とっくりん」とは、「伊丹まちなか

そんな黒木社長の「ものづくり」には
譲れないこだわりがある。それは、健全
な娯楽の追求だ。「夢があり、人に喜んで
もらえるようなものづくりをしたい」。そ
の精神と技術を、共に働く二人の息子や

郷土史こぼれ話⑤ 大谷晃一 274基の墓

5月26日朝刊社会面に、敬慕し
ていた大谷晃一氏の死亡記事があ
った。大きな衝撃を受けた。先生
の「大阪学」は、ベストセラーに
なった。関西を語るにはなくては
ならない、伊丹の誇りだった。以
前、梶井基次郎について教えをい
ただいた。泰然自若。メガネの奥
の優しい眼差しと、筋一本入った
ユーモア溢れる話しぶりは、聞く
人をことごとく魅了した。

朝日新聞の記者から文筆家とな
り帝塚山学院大学の学長を務めら
れた。伊丹市の平和都市宣言文を
書いた。

練られたのも先生らが中心とお聞
きしている。

平成21年、大谷晃一全集を発行
された。伊丹の芸術家協会報「芸
協いたみ」(2009/44号)に氏
の「人生の区切り」と題した一文
がある。生涯を締めくくりに「大谷
晃一 著作集全6冊を全国の国公立
の図書館と私立を含む主な大学の
図書館、公私立の文学館の計27
4館のために総計1644冊を買
い上げて寄贈した。これを以て、
274基の大谷晃一の墓とす
る」。

何と先生らしい生き方よ。その
あと今年1月に自伝的エッセー集
「余生返上」を出版された。享年
90歳。ぽっかり空いた穴を埋める
のに時間がかかる。先生有難う。

(郷土史研究家 森本啓一)



ひょうたん土産で運氣向上



伊丹市の南東に位置し、空港に隣接
する神津地区は「ひょうたんの里」と
も言われる。その由来は、昭和61年に
当時の地区社協の地区長であった高谷
彦三郎さんのアイデア。地区の特産品
としてのみならず、地区社協にひょう
たん部ができるま
でになった。

地区社協ひょう
たん部の加藤春雄
さん曰く「5月に
苗を植えて、水や
りを毎日欠かさ
ず、そして秋に実
がなつて収穫まで
が一苦労。そこか
らもさらに大変
で、種を取るために水に浸すんだけど、
種が腐ると臭くてかなわなかった」。今
では薬剤で薬になったらしい。その後、
絵付けで仕上げる。塗り、磨いては塗
り、また磨くの繰り返し。そんな手間
をかけたひょうたん、いいものになる

すし善

〒664-0851
伊丹市中央2-9-12 ☎072-782-2344



1950年代の「すし善」

昭和元年創業以来、地元で愛され続け
る老舗寿司店がある。ことば蔵の名譽館
長である田辺聖子さんも常連客の一人
で、お決まりの注文はウニ・アナゴ・ト
ロと日本酒だった。著書の中でも「心お
どるいきつけの店」と紹介され、田辺さ
んのファンが来店することもある。

最近では回転寿司チェーン店が多いが、
「すし善」では昔ながらの対面サービス
による一期一会のおもてなしを大切にし
ている。そして、「これからは時代に応じ
た料理を出し、若い人も楽しめるお店に
していきたい」と話した。伝統の味を残
しつつ、時代とともに進化する「すし
善」。田辺さんの本を読むと、また行きたく
なってきた。

伊丹俳壇

坪内稔典選

最優秀賞

初夏の更地出来たて空出来たて

相場 恵理子 (東京都江戸川区)

更地ができ、その上に空が広がったのだが、「更地出来たて空出来たて」と更地と空を対句的に表現したとき、更地も空もとてもすてきなものに見える。しかも「初夏の」という季語による形容がそのすてき度を高めた。

優秀賞

夏空を蹴って僕だけいい街

平 明男 (伊丹市)

三平がアタマを搔いて夏の暮

早瀬 淳一 (神戸市)

万緑を背に抱卵のフラミンゴ

宮下 美智子 (神戸市)

自転車の尻に乗せたる夏帽子

小松 房子 (伊丹市)

金髪と伐折羅向き合ふ大暑哉

山田 真人 (大阪市)

「伊丹公論」名物コーナーの「伊丹俳壇」。今回の兼題は「夏」。夏をテーマに様々な句が集まった。回を重ねるごとに電子申請による投句が増加し、応募件数の3分の1に達した。青森県や宮崎県など遠方からの応募も多くみられ、東京都の方が最優秀賞に輝いた。

「伊丹俳壇」次回の兼題は「酒」。募集期間は7月31日から10月15日まで。最優秀賞には図書券3千円進呈。左のQRコードを利用するとケータイからも投句が可能。問い合わせは伊丹市立図書館とば蔵へ。



坪内稔典プロフィール

愛媛県出身。立命館大学卒。2001年、第9回句集「月光の音」で第7回中新田俳句対象スウェーデン賞を受賞。2010年、「モーロク俳句ますます盛ん俳句百年の遊び」で第13回泰原武夫文学賞受賞。佛科大学教授、京都教育大学名誉教授。柿館文庫也雲軒塾頭。第2回ひがし商店街五七五大賞選者でもある。

伊丹今昔物語

変化続ける「宮前商店街」

地元をよく知る人に昔の話を伺い、昔と今を比べながら、伊丹のまちについての理解を深めてもらおうという企画。1回目とはことば蔵がある宮前商店街を紹介する。

かつて、宮ノ前は猪名野神社の門前町として栄えた。大正以降、急速に商店街が形成され発展。20年ほど前までは宮前商店街にはアーケードが設置され、今では想像できない町並みであった。現在も宮ノ前で鯉節店を営む「高木商店」の高木晃さん(81)に昔の話を聞いた。

「昭和の初め頃の宮前商店街には、呉服屋や染物屋などの専門店が100店舗以上連なっていた。誓文払い(今で言う歳末バーゲン)の時には20〜30分先まで見えないほど人で埋め尽くされ賑わっていた。商店街で結成したソフトボールチームが市内の大会で優勝した時には、優勝



昭和40年代の宮前商店街アーケード (伊丹市立博物館提供)

緊張ガチガチの旅

元おかみの気まぐれコラム



時代装束で練り歩く著者 (左から3人目)



ける宮ノ前がこれからのように発展するのか楽しみだ。

チ、まっす。ものすごく恥ずかしかった。今の歳だったらにっこりと手を振っていたかも。JR伊丹駅近くになると少し笑みがあったかも。1・2キロの旅でした。(平きみえ)

英語註釈日和

歌人の俵万智さんに「八月の朝」という作品(50首)があり、その英訳バージョン(by Jack Stam)もある。その中の1首。河出文庫「英語対訳サラダ記念日」より。

吾をさらい Do you remember
エンジンかけた how you went and kidnapped me?
八月の朝を How you revved up
あなたは to carry me away
覚えているか that morning in August?

まず、日本語(以下、(日)と表記)と英語(以下、(英)と表記)との語順の差異が明確。(日)では5行目の「覚えているか」が(英)では1行目、「八月の朝」3行目は(英)では5行目、「エンジンかけた」2行目は(英)では3行目の revved up となる。

単語では、2行目の kidnap は kid が「子ども」で nap

はもともと nab に由来して「さらう」、3行目の rev up は「エンジンの回転速度を上げる」という意味。

表現面では、「吾をさらい」が kidnapped(2行目)と carry me away(4行目)と2回、また how の節も2回。2行目の how 節を3〜5行目 How 節で同格的に補足説明している。一種の強調ととれるでしょう。

最後に、解釈としては「エンジン」は「愛のエンジン」、revved up は「愛の加速」、morning は当然「朝」という意味ですが、ここでは「愛のスタート」と読むべきでしょう。

左記の英訳バージョンの演流短歌訳とその演流英訳をどうぞ。

覚える?
私をさらった
エンジンの
愛の加速の
8月の朝

Remember?
You kidnapped me
by car
on high revs
on one August morning.

(濱昌央)

タンジョー先生 はやしやよい



林やよい…伊丹市在住。
大学4年生の息子、20歳の娘の母。
毎日新聞阪神版にイラストエッセイ「くるまいすまいる」を連載中。

五杯目



関西人と吉本

関西人は吉本が好きだ。子どもの頃は少しオモロイ奴にはすぐ、「吉本行ったらええねん」などと言ったものだ。そして、拙者の小学校時代の正しい土曜日の過ごし

方、午前中の授業が終わると真っ直ぐ家に帰り、行儀が悪いが、昼食を食べながら吉本新喜劇を観る、というものだった。

「すんまへん ほなこれでどないでっしやる」(お酒を注ぐ岡八郎)「あつちよとと熱いでえ」「す すんまへん」(また、お酒を注ぐ岡八郎)「今度はちよとぬるいなあ」。

その新喜劇で当時看板スターだったのが花紀京と岡八郎。この二人の掛け合いも見事で、拙者が一番好きだったのは、このシチュエーション。

酒屋の大將に扮する岡八郎さんが、奥目を栓抜き代わりして、お酒の栓を抜き、お客に扮する花紀京さんが酒の潤を注文する。以下、花紀京、岡八郎のセリフ順。



「酒の潤もらえるかあ」「へーい お待ちどう」「うーん ちよととぬるいなあ」